

# BIBLE + MESSAGE

子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。

(Iヨハネ3章18節)

「愛」は、そのままでは見るできないものです。「私はあなたを愛しています」と言っても、そこに行動が伴っていなければ、相手はその愛の存在を知ることはできないでしょう。上記の聖書のことばでも教えられているように、「ことばだけ」「口先だけ」の愛は何の役にも立ちません。「行ないと真実をもって」愛することが大切なのです。日本のことわざにも「百聞は一見にしかず」とありますが、まさにそのとおりだと言えるでしょう。賀川豊彦が貧しい人々のために生きたのも、聖書が教える愛の実践だったのです。

神が人間に示された愛は、まさに「行ないと真実」が伴う愛でした。その愛を具体的に示すため、神は御子イエスをこの世界にお遣わしになりました。そしてイエス・キリストは、私たちの罪の身代わりとなって、十字架の上で死んでくださったのです。ここに真実の愛があることを聖書は教えています。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アピタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前10時～10時45分 【礼拝】日曜：午前11時～12時半  
【午後の集会】日曜：午後3時～4時半 【聖書研究会】木曜：19時半～21時

## 聖書を読んだ日本人

「生協（生活協同組合…コープ）」を利用されたことはありますか？

店頭販売だけでなく、自宅への宅配サービスも行ってくれるので、高齢の方や、お身体の不自由な方にとっても強い味方であると思います。この生協の設立に尽力し、初代会

長だった人物が賀川豊彦でした。彼は牧師であり、社会運動家であり、政治家であり、300冊もの著書を残した作家でもあります。

豊彦は若い日にキリスト教の道へと進みます。ところが彼は、重度の肺結核を患い、医師から二度も死を宣告されてしまいます。しかし彼は、「どうせ死ぬのなら、できるだけ長くイエスの精神を発揮してみたい」と考え、神戸のスラム街に

身を投じ、貧しい人々への伝道と奉仕活動に専念するようになるのです。後に豊彦は、関東大震災の救援活動のため、東京に移住しますが、それまでの約10年ほどの時を、神戸のスラム街で過ごしたのでした。

この時の体験から、豊彦は貧困問題を研究するようになります。

「貧しい労働者たちが労働の報酬を正しく受けるためには、労働者が団結しなければならぬ」。彼は貧困問題の解決策として、労働組合運動を重要視しました。そして、時に多くの労働者を指導し、デモ活動を行ったのです。こうした彼の取り組みは、当時の日本社会に大きな影響を与えることとなります。

1920年、豊彦は自伝小説「死



賀川 豊彦  
(かがわ とよひこ)  
1888年～1960年

線を越えて」を書きますが、この本は通算400万部の大ベストセラーとなりました。これは大正時代に最も売れた本だそうです。しかし彼は、この本で得た印税のほとんどを貧しい労働者たちと、その家族のために用いたそうです。

彼の生涯における働きは多岐にわたります。日本に、そして世界に、彼が与えた影響は計り知ることができません。しかし、彼の人生の根底にあったのは、救い主イエス・キリストへの信仰であったことは、言うまでもありません。



400万部のベストセラーとなった著書「死線を越えて」